

令和6年度（2024年度）第1回北区まちづくり懇話会 会議録

【日時】 令和6年（2024年）7月31日（水）午後2時～午後4時

【場所】 北区役所2階第2～4会議室

【出席委員】

丸山 泰、荒木 善光、片山 初美、白石 幸春、高智穂 さくら、
徳永 親、戸野口 庄子、中島 利勝、東 信義、平山 愛、
堀 史、松尾 美佳、宮村 聡、山崎 雄三 以上14名（敬称略）

【傍聴者】 なし

【会議次第】

- 1 開会
- 2 北区長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長挨拶
- 5 職員紹介
- 6 説明事項および意見交換
 - (1) 令和5年度（2023年度）の振り返り
 - (2) 令和6年度（2024年度）の審議事項
- 7 意見交換会（区長の直接対話事業）
- 8 閉会

1 開会

2 北区長挨拶

本日は、大変お忙しい中、懇話会にご出席いただき誠にありがとうございます。

また、委員の皆様におかれましては、日頃より市政全般にわたり、格別のご理解とご協力をいただきますとともに、昨年度に引き続き第6期の委員として、北区のまちづくりにご尽力を賜りますことに心より感謝申し上げます。

さて、昨年度は、熊本市第8次総合計画や北区の新たなまちづくり方針の策定などに様々なご意見を賜り、おかげをもちまして7つの重点目標を含めた「北区まちづくり方針」と「地域カルテ」という、大きな2本の柱となる取組を策定することができました。

今年度におきましては、昨年度策定した「北区まちづくり方針」に基づき、各種まちづくり推進事業を進めていくとともに、まちづくりに関する様々な情報をまとめた「地域カルテ」の作成に取り組んでまいりたいと考えております。

また、本日の会議後半には、昨年度に引き続き「区長の直接対話事業」として、地域の実情や多様な住民ニーズを的確に把握するため、委員の皆様から、まちづくりに関するご意見等をお聞かせいただきたいと存じます。

委員各位におかれましては、豊かな経験や専門的な知見に基づき、様々な角度からご意見賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日のまちづくり懇話会が実り多きものになりますことと、皆様方のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

それでは、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

3 委員紹介

4 会長挨拶

今年度も引き続きこの北区まちづくり懇話会の会長を務めます、熊本県立大学の丸山です。よろしく申し上げます。今年度、第8次総合計画のスタートの年ということで、昨年度から準備してきたものをスムーズに移行できるように行っていきたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

5 職員紹介

6 説明および審議事項

(事務局)

資料1及び資料2について、昨年度の振り返りを兼ねて説明

資料3から資料6について、今年度審議事項等の説明

(丸山会長)

2点質問です。

資料4のPDCAサイクルの中の「D o (実行)」に「区内会議での進捗確認」とあるが、今日までに行ったまちづくり推進事業の21項目について、区内会議で出た課題や議論があれば紹介してほしい。

(事務局)

資料5の北区まちづくりの取組の中で、1番はT S M Cと植木温泉をいかに盛り上げていくかに重点を置き進捗管理を行っているところ。

その重点取組を実現するため、⑩の北区こどもまつり、また、予算は付けていないが、植木温泉夜市を盛り上げていくことを示したもの。具体的には、台湾の団体で「台熊友好会」があり、この団体と協議し、いかに台湾の方を呼び込むか検討した結果、バスで送迎を使用し幅広くこちらに案内しようというところ。

(丸山会長)

資料5の今年度の重点取組として4つの取組があるが、北区こどもまつりはまちづくり推進経費を使って行うこととなっている。他の3つの事業は予算化していないということだが、場合によっては、緊急課題対応費を使用することの検討はされていないのか。

(事務局)

丸山会長がおっしゃるように、緊急課題対応費を活用して事業を進めることとしている。

北区こどもまつりについては、390万円の予算の中でバスを運行するが、植木温泉祭で運行するバスの経費は、緊急課題対応費で対応する。

それ以外の祭りに対しても、出展ブース等で費用かかってくるが、全てこの緊急課題対応費を活用することとしている。

(丸山会長)

ぜひ有効に活用いただき、この2つの重点取組を成功に導いてもらえればと

思う。私からの質問は以上。では皆さんからご質問をどうぞ。

(荒木副会長)

今年度の重点取組のところに4つの事業があるが、主催は北区ということでよろしいか。

(事務局)

北区が主催のものは、北区こどもまつりのみ。その他の3事業は、地域が主催のものとなる。

(徳永委員)

資料5の②に新規事業として「地域団体・企業連携事業」とあり、新しい試みで面白い事業になるかと思うが、少し具体的に教えてほしい。

(北部まちづくりセンター)

新規事業の取組の1点目は、今度8月4日にフードパル熊本で開催される西里校区の夏祭りで、保健科学大学の学生と一緒にブースを出展する。学生さんと子どもさんが楽しく遊べる射的のブースを開催して集客を見込めたらと思っている。

その収益で、後日、学生さん向けにフードパルの案内をして親しんで頂くという内容で計画を立てている。

もう1点は、北部商工会青年部との連携事業で、川上小学校PTAで実施されているキャンドルナイトと北部まちづくりセンター駐車場のイルミネーションの2つのイベントを繋いで楽しく過ごせる場の創出を行う計画を立てている。

今後、PTAの方たちと一緒に協議を重ね、計画をさらに盛り上げていこうと考えているところ。

(丸山委員)

今の説明の事業区分が「産業振興」に区分けされている目的があれば教えてほしい。

(事務局)

こちらの事業産業振興分類したのは、北部商工会をはじめとした企業の方々等と連携しようということから。

(丸山会長)

例えば、北区の企業と連携して、何のためにやるかというような目的を定義するとより分かりやすくなると思う。

(松尾委員)

この事業は新規事業となっているが、去年との違いは何か。

(北部まちづくりセンター)

今年川上小学校が創立 150 周年のメモリアルイヤーとなる。今年度は、北部まちづくりセンター内で安全を確保した上でお化け屋敷にするなどのイベントをPTAと一緒に計画中。

(東委員)

文化振興についてお尋ね。武蔵塚顕彰祭が毎年行われているが、記録は残しているのだろうか。

(龍田まちづくりセンター)

武蔵塚公園には顕彰会があり、例年5月に、宮本武蔵顕彰祭を行っている。その際には、まちづくりセンターの職員が写真等での記録をしている。

動画を撮ることはできていないが、今後参考にさせていただきたい。顕彰祭の内容については、フェイスブックなどで市民の方へも発信しているところ。

(堀委員)

くまもとアプリについて、今後活用されるような取り組みはあるか。また、自分自身も使ってみたいが、校区の中でアプリを利用する際のガイドラインがあれば教えてほしい。

(事務局)

くまもとアプリについては、地域活動推進課が所管となるため、現在わかる範囲でお伝えする。

ボランティアや対象のイベントに参加したときにポイントが付与され、また、避難所運営の際に使用するというもの。対象事業については、地域活動推進課で選定している。こどもまつりをポイント付与対象に考えている。

(北部まちづくりセンター)

資料5の④にある「ホテル観賞と史跡瑞巖寺」を5月17日に実施し、ボラ

ンティアに来ていただいた保健科学大学の学生には、くまもとアプリを事前にダウンロードしてもらいポイントを付与した。ボランティアの証明もアプリで確認できるため、就職活動等で利用できるシステムとなっている。

(丸山会長)

現状、北区として取りまとめて申請しようというようなことはないのか。

(事務局)

現在のところ、市主催事業について地域活動推進課でとりまとめを行い運用している状況。発信の方法等については検討する必要があると思う。

(高智穂委員)

地域行事も対象にすることで、参加した子どもたちへボランティアの紹介やポイント付与ができれば良いと思う。区の職員が間に入って地域行事も吸い上げてもらえたら良い。

市政だよりに④がついている事業がポイント付与対象事業となっている。マイナンバーと連携するという部分で挫折する声をよく聞く。

(吉住区長)

くまもとアプリ事業については、市全体として周知できていない部分がある。今後検討していく必要があると思っている。使い勝手も含めたうえで、後日きちんと答えを出していきたいと思う。

(白石委員)

資料4の右下にある外部評価として、このまちづくり懇話会が位置付けられているが、私たちは身内の立場ではないだろうか。できれば、本当に外部評価をしてもらうことも検討してはどうか。

また、地域カルテは、区民が活用して意味がある。作成後の周知・啓発をしっかりしてもらいたい。

(事務局)

職員だけで事業を考えるのではなく、外部評価という形でまちづくり懇話会の各分野のそれぞれ専門の方に集まっただけではないため、委員様からのご意見をぜひ反映させていただきたいという思いで、外部評価としたところ。また、各課で執行している中で、アンケート調査、地域の方々や参加者のご意見も踏まえながら事業を考えていきたい。

地域カルテについては、作成するだけではなく、区民の方々にいかに活用していただくかが大事なので、地域で活動されている方への配布やホームページへの掲載を行い周知徹底していきたい。

(徳永委員)

資料5の⑥に地域コミュニティづくり支援補助金があるが、実は私も2年間お世話になっているので気になるところ。今年、応募は増えているのか。

ぜひ、こういう活動をしたいから補助金が欲しいという団体はたくさんあった方が、地域が活性化しているというバロメーターにもなって良いと思う。

①今年の応募状況について、②補助金をもらった団体のその後について把握する考えがあるかどうか、聞かせてほしい。

(事務局)

この事業の予算について、まずご説明させていただく。5区の中で1番多い410万円を確保している。

①今年度、予算以上の申請をいただき、結果として5団体を不採択としている。これまでの申請状況は、予算410万円に対して200数十万円のこともあった。コロナの収束後、地域活動が活発になってきたため、今回のような応募状況になっているものと推測する。不採択となった5件については、今後執行状況を見てフォローすることや仕組みを作り可能な限り努力していきたい。

②この補助金は単年度限りの住民の身近な課題対応事業と3年を上限として補助金を交付する地域コミュニティモデル事業がある。このモデル事業は、そのイベントだけに関わらず横展開するようなことも趣旨としているため、委員のおっしゃったような形でフォローを行い、課題等を聞きながら、その地域イベントのみならず、いかに横展開できるかを考えていきたい。

(徳永委員)

申請をされる方々は、手を挙げて一生懸命何かをしたいという人たちの集まりだと思うので、ぜひ大事にしていきたいと思う。

高齢化で持続できないというところもあると思う。どこかで支え合う仕組みが必要だと感じる。

(松尾委員)

5月に開催されている宮本武蔵顕彰祭は、龍田及び龍田西校区の自治会からお金を出し合ってこれまでやってきている。熊本市として残すべき重要な文化事業だと思うが、少ない予算の中から地域で出し合って継続している状況。伝

統的なお祭りや式典は、残していかないといけないと思うので、北区でも色々援助をしてほしいし、歴史的な行事にもう少し視点を持っていただきたい。相談窓口はどこになるか。

(事務局)

まずは、北区役所総務企画課で声を聞かせていただく。また、文化系の団体においても様々な相談をいただいております、同様の財源が厳しいという意見もある。

北区としてどのような支援ができるかというのは、北区内ではもちろん、文化政策課等とも連携しながら考えていかなければならないと思っている。

(丸山会長)

ぜひ場を作っていただくことが重要だと思うので、よろしくお願ひしたい。

(東委員)

地域コミュニティセンターが厳しい現状にあるというのを耳にした。物価も上がり経営が厳しいということで、区からの支援はないのか。

(事務局)

以前からご意見ご要望があり、6月議会において、全地域コミュニティセンターに対して、最低賃金と実際の予算の積算に誤差があったということで、一律60万円を交付することで支援策を講じているところ。

(東委員)

物価高騰とコミセンの人員が少ないということを知っている。区役所から人員の応援はしているのか。地域の拠点ともなっていて様々な事業をしており、非常に大変だと思う。

(事務局)

地域コミュニティセンターへは、委託料をお支払いして地域の方に運営をいただいているところ。個別の事業で職員派遣は行ってはいない。

(吉住区長)

熊本市も地域コミュニティセンターについては、当然、地域の拠点という認識をしている。各校区(地区)に一カ所、全て熊本市が建設し、運営についても補助をしているところ。そして、運営は地域の方へお願ひをしている。

(丸山会長)

一旦、懇話会の議題については、ここで閉じさせていただく。まだ第1回目なので、今後や来年度に向けて、今いただいた意見等を反映して行ってほしい。

7 意見交換会（区長の直接対話事業）

(事務局)

区長の直接対話事業とは、「定期的に区長と地域が対話できる場を設置することで、北区が地域の情報を積極的に収集し、市の施策に反映させ迅速に課題解決へと導くこと。」を目的に実施しているもので、各種地域団体や各校区の皆様からご意見等を伺っているところ。

昨年度に引き続き、まちづくり懇話会の場をお借りして「意見交換会」を実施する。

ぜひ、各専門分野のお立場から、様々なご意見をお聞かせいただきたい。

(吉住区長)

4月に北区長を拝命した。北区には22の自治協議会がある。

全ての自治会会議に顔を出して、直接話を聞いている。

それ以外にも、老人クラブや各種団体へお邪魔し、膝を突き合わせて様々な話をしているところ。

今回は、懇話会の場を借りて、いろんな職種や役員の方々がおられるので、ぜひご意見があればお話を聞かせていただきたい。

区長を拝命し、市長から区役所の機能強化を1番に言われた。基本的には北区役所で全て完結するということ。

北区にお住まいの方から直接話を聞いて、それをできれば北区役所内で解決していきたい。

植木温泉夜市や北区こどもまつりは、私が当初から思い描いているもの。植木温泉を知ってもらうことから始めたい。また、北区ではTSMCは切っても切り離せない。地元の方々と、台湾をはじめとする外国人とがうまく溶け込んだ地域づくりができないかということで、一つの起爆剤として重点取組として4つの事業に台湾の方々を招待するとしている。

また、交通ルールが日本と台湾では違うとのことで、日本の交通ルールについて教えてもらえるよう、今年は警察へも協力を依頼している。

実現できることとできないことがあるが、前向きに検討していきたいと思っている。

今日は色々なお話が聞けたらと思っている。

どうぞよろしく申し上げます。

(白石委員)

日頃からコミセンを利用しており、地域団体ということで無料で使用でき、非常に助かっている。

そういうこともありコミセンにお金はない。また、年数が経てば建物は痛むし維持費も必要になってくる。市から補助をしていただきたいと思う。

市では、コミセンを造り、運営費も渡しているから、あとは自分たちで運営しなさいということかもしれないが、それでは運営は厳しいだろうと思う。さらなる助成を検討してほしい。

(吉住区長)

コミセンは指定管理料をお渡しして委託をしている。その指定管理料の中に維持管理費も含まれている。

しかし、人件費の部分が最低賃金を下回っているということで、6月補正予算で人件費分を追加でお渡ししているところ。

(白石委員)

予算はたくさんあった方がよいため、適切な使い方をしているか、どれくらい不足するか等を区役所が把握してもらえると良いと思う。

(中島委員)

私は懇話会委員3期目となる。地域のボランティアを始めて15年くらいになる。課題の一つが担い手不足。

お母さん方のボランティアの参加も少なくなっており、子ども会の加入率が著しく低下している。機能していないところも多い。

ヒト・モノ・カネが無いと運営は難しい。特に人。校区では、シンボリックなイベント(夏祭り、どんどや、運動会等)があるが、高齢化が進み、担い手不足は非常に深刻。区長はどう考えておられるか。

(吉住区長)

これは、5区の中でも共通課題。市長も認識しているが、明確な答えは出ない。各まちづくりセンターの地域担当職員が積極的に入り、解決に向けて対応していきたい。

(徳永委員)

昨年度、北区文化協会ができたが、その北区文化協会と北区役所との連携は具体的に何かあるか。

(吉住区長)

熊本市の文化協会の会合等に出席はしているが、現在、決まった連携事業などは特にはない。

(徳永委員)

昨年度、北区文化協会ができたときに講演をされた姜尚中さんが、地域の伝統芸能や地域文化は、担い手（特に若い方）が引き継いでくれないと途絶えてしまうとおっしゃっていた。根本を辿ると独身男女の出会う場所が少ないという意味でも、若い男女が中心になった文化活動のようなものを組織して北区で実験的に始めても良いのではないかと思う。北区の企業さんは応援してくれると思う。

様々な企業の社員さんが、例えば音楽が好き、ピアノができる、ギターが弾ける、という人たちを引っ張り上げていくこと。また、その原動力は独身男女の人たちが中心になって何かやっていく場を提供していければいいのではないか。

私が11月に行う「北区地域づくり集談会」でも、できることを精一杯やっていきたい。

(吉住区長)

具体的に北区で何ができるか考えたときに、行政にできることは限られてくるため、民間企業を巻き込んでいくしかないのかなと思っている。

(宮村委員)

20歳から40歳までの団体ということで、私たちの団体に入っているメンバーは、結婚していて子どもがいる方が多いというのが現状。

結婚や子育てに対する問題意識とか、どういう人生を切り開いていくのかを考えているメンバーが多いのかなという印象がある。私たちは、子どもの青少年育成事業や、まちづくりのためのローカルマニフェストの検証をしている部分が多い。

(平山委員)

今の話の流れで、一つ携わった事例があり、商工会の企画で婚活イベントを行った。吉次園で観光やバーベキューなどをした後、旅館でゆっくりゲーム等をしてバス旅行をするというような企画を一緒にしたことがある。1年後位にその婚活イベントで出会って「結婚しました」という方が来られた。

宿にお名前を書いて帰られたケースがあった。数はたくさんではないが、そ

ういった事例もある。

その後コロナの流行で開催は1回だったが、今後もできる事業ではないだろうか。

(高智穂委員)

お祭り等の機会に、参加している北区民の皆さんや外国人にも「自治会加入促進」や「交通ルール」、「防災」など様々なことについて伝えられる仕掛けがあると、いろんな世代に伝わっていくのかなと思う。

地域住民もたくさんいる場なので、そこで顔見知りになることが何よりも大事。

清水まちづくりセンターがモルックの普及に頑張っているが、各校区対抗モルック大会をすると、それが北区のいきいき交流スポーツ大会と合わさって予算もだんだん集まってくる。そこで賞金を出すと、目の色を変えて参加してくれる。

これまで地域活動に全然興味がなかった人たちが来てくれる。そこに台湾の人を呼んだり大津町と北区が一緒になったりすれば、地域としてもつながる。

事業を分けて進めていくのも大事だが、まちづくりはすべて共通しているので、どれもこれも一緒にやる。その回数が増えていくと自然と目に触れる機会や参加する機会、伝わる機会が増えると思う。

地域に担い手がないとか、こんなことやってくれる人がいたら手伝ってほしいというのを、区役所や地域の皆さんが発信できているかというところでできてないと思うし、これまでとやり方を少し変える必要があると感じている。

行政や自治会などが何をやっているかが伝われば、きっと興味を持ってくれる人たちがいると思う。

(吉住区長)

今年度に限っては、北区では半導体、台湾、抜きでは北区は語れない。今年度は台湾の方、地元自治会、植木温泉、商工会、保健科学大学、崇城大学を結びつける。それを一つの起爆剤として4つイベントを作った。

さらに、来年度以降は、その4つのイベントに高智穂委員がおっしゃった防災、担い手不足等を取り入れようと思う。

(高智穂委員)

子どもたちは、自治会の役員さんたちがいつから計画してどんなに準備がたいへんかを知らない。大人がこれだけ楽しんでほしいと思って取り組んでいるということを伝えたい。

また、龍田校区では、ごみ出しルールもわからなかった外国人と地域の方が交流を通してごみ出しルールについて教えてもらったり、サロンに参加したり、地道な積み重ねをして、その後にも転入してくる外国人に伝えていくというシステムができてきた。

(吉住区長)

TSMC関連では、楠、榆木、龍田、龍田西、武蔵、弓削周辺は切り離すことはできないと思っている。

まちづくりには、必ず外国人をセットで考えていく。ごみ出しルールも交通ルールについてもきちんとしていきたい。

今の北区で最大のテーマはTSMCなので、外国の方と地域住民が溶け込むこと。そこは丁寧にかつ大胆にしていきたいと思う。

(徳永委員)

北区全体として一体化させる考えなのか。それとも、個々の自治会単位でやれば良いという考えなのか伺いたい。植木や北部は合併しているため、一体感はまだ無いように感じる。

(吉住区長)

あくまでも、まちづくりの主体は自治会で、行政はサポートをするという立ち位置だと思っている。

行政主催になると自治会（地域）に主体性がなくなっていく。地域毎の課題に寄り添ったサポートを区役所でおこなっていく。

今年度、北区の22校区（地区）の自治協議会長連絡会議を行う。今年度は8月8日に1回目を行い、年に2~3回開催し、各自治協議会の課題等情報共有をしていく。

(東委員)

今回実施する4つのイベントに台湾が連携すると大きなニュースだと思う。取材が来ると北区のPRにもなる。ぜひ、取材に来るよう行政から依頼してほしい。

(白石委員)

大きなイベントである地域の夏祭りも、コロナをきっかけに中止が続いていたが、最近、復活の兆しが見えてきた。更に盛り上がるように、夏祭りをするに10万円をあげるというような取り組みなどできないか。

以前、地域コミュニティづくり支援補助金をもらったが、報告書や領収書の提出が大変なため、活動報告を簡単にしてもらおうと地域活動が復活するかもしれない。

(吉住区長)

各まちづくりセンターの地域担当職員が地域に入り、貢献していきたい。

(中島委員)

運動会を立ち上げる際、地域の企業から商品券をもらうなど協力してもらった。企業は広報にもなるし、住民も喜ぶ。行政に頼らなくても色々やり方はあると思う。

(吉住区長)

本日いただいたご意見等については、行政で対応できる部分については対応していきたいと思っている。今後ともよろしく願いたい。

本日は誠にありがとうございました。

8 閉会